会議議事録（要旨）

会議の名称	平成３０年度　第２回 鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画作成委員会
開催日時	平成３０年７月３０日（月）１４：００～１６：００
開催場所	鳥取市役所駅南庁舎　地下Ｂ５会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	竹本委員、山根委員
事務局職員氏名	梶課長、小森課長補佐、岸本主幹（以上、鳥取市福祉部地域福祉課）、鹿田次長、田中次長兼総務企画課長、相見地域福祉課長、茂上地域福祉課課長補佐（以上、鳥取市社会福祉協議会事務局）、小出主事（鳥取市中央人権福祉センター）
会議次第	１　開会 ２　委員長あいさつ ３　議事 （１）「鳥取市の地域福祉の推進に関する住民意識調査」の結果概要から見る課題について （２）　地域福祉に関するグループインタビュー調査の結果概要について （３）鳥取市における地域福祉の課題の整理について （４）パーソナルサポートセンターの現状について （５）鳥取市の地域分析について （６）鳥取市における地域福祉の課題に係る意見交換について （７）その他 ４　閉会
配付資料	資料１　「鳥取市の地域福祉の推進に関する住民意識調査」の結果概要から見る課題 資料２　鳥取市 地域福祉に関する座談会（グループインタビュー調査）報告書 資料３　本市における地域福祉の課題と取組の方向 追加資料１　作成委員会のスケジュール 追加資料２　パーソナルサポートセンターの現状 追加資料３－１　数字で見る鳥取市の状況　※第１回資料４再配布 追加資料３－２　数字で見る鳥取市の状況（共同募金） 追加資料４－１　鳥取市の地域分析について 追加資料４－１　鳥取市（旧市域）の地域類型別世帯数・人口・高齢化の動向 その他　次第、委員名簿、座席表
その他	

議事内容（要旨）	
事務局	・開会 ・資料の確認
岩城委員長	・挨拶 ・議事（１）「鳥取市の地域福祉の推進に関する住民意識調査」の結果概要から見る課題について、説明を願いたい。
事務局	・出席者の確認 ・資料１説明
岩城委員長	・質問等があれば伺いたい。 ・なければ、議事（２）、説明を願いたい。
事務局	・資料２説明
岩城委員長	・質問等があれば伺いたい。 ・なければ、議事（３）鳥取市における地域福祉の課題の整理について、説明を願いたい。
事務局	・資料３説明
岩城委員長	・質問等があれば伺いたい。 ・なければ、議事（４）パーソナルサポートセンターの現状について、説明を願いたい。
パーソナルサポートセンター	・追加資料２の説明
岩城委員長	・質問等があれば伺いたい。
M委員	・せっかくなので、どういう傾向があるのか話してもらいたい。
パーソナルサポートセンター	・内部できちんと話してから、次回答えたいと思います。
Ｌ委員	・資料の表にある「プライバシー」とは、どういうものなのか。
パーソナルサポートセンター	・「プライバシーの侵害をされた」と人権問題で来られた人です。
Ｋ委員	・傾向については、相談が深くなればなるほど、抱える悩みや心配事が深刻になり、複雑化する。例えば、認知症のおばあさんを抱えたお嫁さんが相談に来る。話を聞くと、子どもさんには障がいがあるという。ひとつ問題を解決して終わりでなく、１軒丸ごと抱える課題の深さがある。少人数の職員体制では難しいので、パーソナルサポートセンターのような、専門的な関係団体や機関との連携が必要になるケースが多くなってくると実感している。
M委員	・複合的な問題が起きるのはその通りだと思う。 ・表の右側に「複合困難　9.9」「社会的孤立　37.6」とある。この数字はパーセントか。

議事内容（要旨）	
パーソナルサポートセンター	・社会的孤立は、パーセントです。複合困難は、１人あたりが持っている件数です。
M委員	・資料の表では、「社会的孤立」が赤い文字となっている。社会的孤立が増えるのに合わせて、問題が複合化しているのが大きな特徴といえる。この辺りが今後の地域福祉の大きな課題で、十分ケアしないといけない。地域性を合わせて考えないといけないので、パーソナルサポートセンターには深く検討してもらいたいと思う。
Ｎ委員	・現在民生委員と２期目の防災指導員をしている。その中で感じるのは、住民同士のつながりが弱くなっていること。年配の住民については、他の住民もよく知っているが、若い人のことは知らない傾向がある。 ・他の委員が話されているように、問題が複合化して、どう対応していいかが今後の問題となるが、早期発見が重要だと思う。そのためには民生委員や防災指導員がどのようにしたらよいか。良い方法があれば教えてもらいたい。
岩城委員長	・大変難しい質問だ。委員会は、これからどうしたらよいか、どのような対策が重要かを練っていく会議なので、ご意見やご提案をいただきたいと思う。 ・引き続き、議事（５）鳥取市の地域分析について、説明を願いたい。
事務局	・こちらについては、竹川委員に説明をお願いしています。
竹川委員	・追加資料４－１説明
岩城委員長	・質問等があれば伺いたい。
Ｎ委員	・うちの地域の実情について。私は 20 世帯の地区で区長をしている。高齢者が多く、60～65 歳ぐらいでも若いと言われる地域で、皆区長をやりたがらない。 ・また部落や自治会の会合には、１世帯から１名しか出て来ない。そうなると、決まった人しか出ないから、いつも同じ顔ぶれになる。その中ですべてを協議し、イベントなどを行うから、情報や人間関係が広がらない状態が続く。そして、それが部落の固定化、弱体化を促進することにずっと疑問を感じている。 ・説明の中で、要支援や要介護の人が「日頃不安に感じていること」として、悩みの相談相手がいないことを挙げていたが、これは一般の高齢者も同じだ。そこに民生委員が入り込んで話を聞かないといけない。話を聞くと、意外と隣の人を知らない。隣同士でも知らないことを中部地震の際に知り、驚いた。

議事内容（要旨）	
Ｎ委員	・相談できる相手を鳥取市や民生委員のような機関に任せるのか、何に任せるかを考えないといけない時期に来ている。民間やボランティアなど、もう少し広がりのある人に任せてはどうか。ちょっとした日頃のことで相談できる、機会を捉えて聞く（役割の人）、ゲートキーパー*のような存在、私が名付けたのだが「センサーキーパー」のような（役割）を民間でできないのだろうか。鳥取市にはそういった考えを採用するなど、もう一歩進んでもらいたい。 *こころに不調を抱える人や自殺に傾く人などの悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。
岩城委員長	・１つ意見をいただいたとして整理したい。 ・他に意見があれば伺いたい。
Ｆ委員	・65～70 歳くらいの人の多くは、自分が高齢者だという意識が薄い。75 歳以上の後期高齢者の方が心身ともに弱ったり、独居や老老介護といった問題がある。「65 歳以上よりも後期高齢者の方が問題というのが現実」という認識でよいか。
竹川委員	・障がいを持っている前期高齢者もいるが、要介護・要支援になっている人のほとんどは後期高齢者だ。ただ地域で孤立している独居高齢者は、年齢を問わず、男性が多い印象を持っている。
Ｆ委員	・独居高齢者と一般の比較データがあるが、一般はどのくらいの年齢を対象としているのか。
竹川委員	・年齢層に関するデータが手元にないが、世帯主だと思うので、高齢者に近い年代が多かったと思う。だいたい 40 代以上が多かったように思う。
Ｆ委員	・ということは、働いている現役の人か。
竹川委員	・そうだと思う。
岩城委員長	・他に意見があれば伺いたい。
Ｏ委員	・鳥取県内の不登校やひきこもりのサポートをして十数年経つ。拠点が鳥取市内にあることもあり、市内からの相談が多い。不登校やひきこもりの陰には、たくさんの重複化した問題がある。そういった事実や内容をもっと皆さんに知ってもらいたい思いがある。 ・最初は青少年の問題として取り組んできたが、ご存じの通り今は 8050 問題が出て来て、切実な相談がある。ひきこもっていた人も 50 代に入り、高齢者の親をサポートしないといけない。そういった高齢化の問題も視野に入れて、今回の話を聞いた。全国的にもそういった問題があり、私自身もどうしていこうか考えている。私も鳥取市民なので、鳥取市内の課題として改善していきたい熱い思いはあるが、働くところがない、地域住民のつながりもない中でどうしていけばよいのかが大きな課題だと思う。ひきこもりの問題は、若い世代だけでなく高齢化・長期化した高年齢の人達だとも捉えてもらえたい。

議事内容（要旨）	
岩城委員長	・今の意見は、議事（６）鳥取市における地域福祉の課題に係る意見交換についての方だと思う。 ・ここからは議事（６）について、それぞれの立場から伺いたい。ここでたくさんの意見を抽出して、次回以降につなげたい。
Ｉ委員	・医療の仕事をしていく中で、竹川委員の話は実感できた。 ・一番大事だと感じたのは、問題は一気に解決しないかもしれないが、地域で共に生きていくのだから皆で知恵を出してということだと思う。この委員会が地域福祉というテーマで集まっているが、障がい者や不登校、高齢者という縦割りではなく地域を中心として、困っている人に対して生活を中心にどう解決したらよいかを考えるものだと思う。 ・介護保険加入者の８割が利用していない。利用できない事情がある人もいるかもしれないが、元気だから利用していない。 ・高齢者が介護保険を利用しなくてもよいよう、現役で人生を過ごせる状況をどう作るかについて、ひとつ議論してもらいたいことがある。それは、移動手段の問題だ。市の施策として 100 円バスを巡回させているが、高齢者の利用はどうなっているか、利用実態や効果について知りたい。 ・移動手段の問題についてもうひとつ述べたい。アクセスの問題が社会的な孤立を促進し、外に出ないことで介護度が上がっていく。つまり介護保険が増え、病気も重くなるのだが、そういった難しい問題に挑戦している自治体が増えている。民間の事業者に赤字でバスを走らせてもらうのは酷な話だ、自治体ですべてを賄って走らせるのも財源的に可能かという議論もある。特別交付税の制度も利用して市単位の条例を作り、公共交通を確保する施策をはじめた自治体も幾つか出ている。 ・移動手段がなくて困るが、（運転）免許も返せとなっている、どうしたらいいのか、という問題も横には置けない。そういった議論もしたらよいと思う。
Ｐ委員	・介護保険や子どもの療育に関わっているので、その点から話をしたい。 ・介護予防について。大分県の介護保険の認定者の半数は軽度、軽度の半数は生活不活発病による機能低下だという研究結果が出ている。自立支援は、いかに生活を活発にするかというのがメインになると思う。移動支援もそうだし、身の周りのことをすることだったり、仕事や余暇のバランスをいかに取るかが大事だと思う。身近でできる介護予防として、家事をやってもらう。例えば雑巾がけを１時間するのは、ウォーキング１時間に相当する運動負荷がかかるという。運動として、介護予防としてやってもらう普及活動も必要だと思う。

議事内容（要旨）	
Ｐ委員	・家事をしていない男性も多いので、そういう高齢者には就労支援をする。仕事をして納税者でいてもらうことが大事だと思う。先ほどの説明の中でもあったが、生産年齢人口の中には精神疾患や発達障がい、身体障がいなど就労が困難な人もいる。そう考えると、生産年齢人口の中でも納税できる人は減ってくる。厳しくなると考えると、いかに働き口を作るかも大事だ。 ・余暇について。特に男性の高齢者が外に出ないという話があったが、実感がある。そうならないため、定年までにいかに趣味を持ってもらうかが大事だ。個人的には、趣味の大学のようなものをやりたいと思っていた。若いうちから趣味を作る支援も大事だと思う。 ・重度心身障がいの子どもの余暇は限られている。鳥取市には、そういった子ども達用の遊具がないので、倉吉市まで出かけるそうだ。鳥取市内にもあれば、家族ももっと外出しやすくなるし、そこで周りへの理解も進む。障がい、高齢者ともに余暇支援が必要だ。 ・認知症については予防も大事だが、認知症の高齢者が安心してひとり歩きできるまちづくり、認知症になっても大丈夫というまちづくりも大事。個人情報の問題があるため難しいかもしれないが、コンビニやスーパーに協力依頼をして、皆で情報共有をする。ひとり歩きしている認知症の高齢者がいたら、バス停まで安全に送り届けられるなどできればと思う。うちの事業所では、ひとり歩きする人に「デイサービス広報部長」という肩書で、その人とデイサービスの住所・連絡先を入れた名刺を作り、持ってもらっている。実際にどのような使い方をしているかはわからないが、仕事で名刺を出す習慣があった人々なので、そういう形を考えた。しかし、１事業所だけでやっていても効果は薄い。まち全体でできれば、住みやすい鳥取市になると思う。
岩城委員長	・他に意見があれば伺いたい。
Ｌ委員	・所属している法人では障がい者、高齢者、母子支援を行っているが、時々相談が寄せられる。先日は、「生活保護者が空き巣に入られたが、保護費がまだ出ないのでとりあえずの生活支援を」という大家さんからの連絡があったので、支援事業の連絡先を紹介した。 ・（制度は）介護は介護、障がいは障がい、母子支援は母子支援とそれぞれになっているが、地域の中で、自治会の皆さん、民生委員の皆さんは、関係なく色々な相談受け、福祉につなげていると感じている。 ・前回も話したが、地域包括支援センターは小学校区単位に分割し、介護保険だけでなく、子どもや生活など幅広い相談ができる窓口となって、そこから吸い上げたものが介護、障がい、生活困窮など統括する所へ行く。うまくいけば地域の役に立てるのではないかと思っている。センターのあり方を検討したらよいと思う。

議事内容（要旨）	
Ｌ委員	・昨年町内会長を受けた。引き受けたのは、一昨年、58 世帯しかない町内で高齢者夫婦が火災で亡くなったからだ。その時、この夫婦の家族の連絡先がわからない、家族構成もあやふやで慌てたが、幸いにも要支援者の名簿があって警察につなげることができた。そこで町内会の家族構成を把握できるようにしたが、理解して協力してくれる人もいれば、家族数は教えても性別は書かないケースもある。色々ありながらも一応は町内会の構成名簿はできた。 ・一番大変だったのは、会長を誰も引き受けないこと。会長は防災訓練やレクリエーション、敬老会などを絶対しないといけない。協力は得られないので、１人で企画、立案、実施する。ＬＥＤの街灯など鳥取市に助成金をお願いする、申請書類を書くのも自分１人でやらないといけない。もう二度とやりたくないと思った。町内会の活動も、どういったメンバーで構成する、それぞれの役割はこうといったパターンや事例を示してもらうと、なり手が増えるのではないかと感じた。
Ｂ委員	・「我が事・丸ごと」「地域共生社会に向けて」といわれて３、４年になる。その中で住みよい社会にするにはどうしたらよいかを常に考えている。高齢者や子どもの相談は増えているわけではない。周りから問題が出過ぎるので、意識的に多いと感じているのだろう。高齢者に関しては数としては確かに多く、ひとつの相談事、悩みごとが深い。今は何とかやっているが、地域共生社会に向け、地区でどれだけの人材を集められるかだと思う。 ・私の地区では、全部の団体を集めて「どうやって地域共生社会を作ろうか」と、行政を呼んで勉強した。ただ、やろうという意識があっても、どうやっていいかわからない。考えるのは地区だと思う。山間部、市街地など地域性があり、民生委員も地域によってやっていることが違う。 ・グループインタビュー（資料２）を読ませてもらったが、担当者の意見が多い。地域共生社会を作っていくは、地域にいる人達。人材はたくさんいる。町内会でそれぞれの地区が団結し、地域住民の潜在的な能力を引っ張り出して、困っている団体の意見も聞きながら、どうやったら地域でやっていけるか提案していきたいと思う。
Ｆ委員	・今日の委員会は課題を出し合い、意見交換をして事務局がまとめ、次回解決に向けての話し合いになるのか。どういう発言をしたらよいのか戸惑っているので、議論の進め方を教えてもらいたい。
事務局	・まずは皆さんが感じている課題を出してもらい、それを整理します。その後、どういう施策を行っていくといいかをまとめていきたいと思っています。
Ｆ委員	・ざっくばらんに意見を言えばいいということか。事務局から 13 ほど課題が出されている。最終的にこれらに添った計画の流れになるのか、またはそれらは一切関係なく、委員会で出された課題のみが計画に反映されるのかよくわからない。

議事内容（要旨）	
事務局	・事務局が出したものに皆さんの意見を加えて、充実させていきたいと思います。
Ｆ委員	・認知症に関して、昨年鳥取市では「認知症初期集中支援チーム」ができて、私も一員となった。認知症と診断されていない人や認知症だが介護認定を受けていない人について、チームのメンバーがその人の元へ出向いて認知症の診断を受けてもらったり、介護サービスにつなげるというものだ。介護認定を受けてもサービスを利用していない人もいるが、独居でひきこもっている人は、外に発信されないから介護認定さえ受けない、受けられない。そういう人達がそのままひっそり亡くなるケースもあるので、介護認定を受けてもらう、いわゆる「お節介」を行政やそれ以外の所がどれだけ関わっていくかが問題になっている。全員救おうとすると、けっこうなお節介が必要になるし、高齢者側から見るといらぬお節介になるかもしれない。それをどう計画に反映させるか。
Ｌ委員	・所属している法人が行っているデイサービス４つの稼働率は、99％と高い。ただ、４つの内３つの男性の利用率は、３割あるかないか。特養の利用率もそれくらい。一方で一番新しいデイサービスは、男性が嫌うデイサービスを排除して、日中好きな時間に将棋や碁、麻雀を行っているので６割くらいいる。デイサービスで事業者（私達）とつながった人には、デイ以外でも安否確認や熱中症対策などを行っている。デイ以外での困りごとをつなぐ支援も行っている。介護保険を使わない男性が多いが、鳥取市内のデイサービスの男性利用をもっと高めれば、事業としても成り立つ。 ・Ｐ委員から出た事業についても、鳥取市では計画策定している。機能訓練と地域に分かれ、広い範囲の話をしている。 ・M委員と共にこれまでも他の計画の会議に参加しているが、今回はとても紳士的だ。以前は鳥取市が課題を抽出して、「こういう数値目標を立ててやりますが、いいですか」という形だった。しかし今回は、各グループに聞き取りを行って課題を抽出、データ化し、委員会で意見をたくさんもらう。実りある会になるといいので、皆さんからたくさん意見をいただきたい。
O委員	・孤立化する高齢者だけでなく、閉じこもりやひきこもりも、人と人との関係性の問題がクローズアップされると思う。高齢になるまでの長いライフステージの中で、子育て支援や早期対応など行政がたくさんサポートしてくれるが、行政には異動や転勤があるため、ようやく相談できるようになった人が変わるという現実がある。そこを民間などの活動団体がサポートできる体制にして、行政と連携することが必要。行政に依存するのではなく、地域自ら社会資源や基盤を作り、サポートできたらと思う。

議事内容（要旨）	
Ｏ委員	・閉じこもりやひきこもりの数が行政に上がっていかないのは、敷居が高い部分もある。民間なら行きやすい、相談しやすい体制がとれたり、近所の話から関係づくりもできると思う。ライフステージの中でサポートできる所と連携していく、色々な所とネットワークを作っていくことを、画餅かもしれないが、地域に住む人間達がしっかりと意識しないといけない。また地域住民にどのように発信し、啓発していくかは大きな課題だと感じている。
岩城委員長	・他に意見があれば伺いたい。
Ａ委員	・地域福祉の課題と取組の「３地域活動への参加促進」について。「誰もが参加しやすい地域活動の促進が必要」と一文があるが、無理があると思う。年代に応じた参加しやすいものがあると思う。 ・若者の参加を心配しているが、その必要はないと思う。若い時は外に出て、地元に目が向かないが、歳をとるにつれ地域や隣近所が大事だと思ってくる。「６福祉を支える担い手の育成」とも関係してくるが、支え合う組織、仲間づくりを目指す観点も必要だと思う。
Ｅ委員	・竹川先生のアンケートから組織を作った。最初に言い出したのは人権福祉センターの所長で、支え合いが大事だと進めてきた。今日の話で、うちが進んでいると感じたのは、組織の中に各種団体全てが入っていること。さらに市の社会福祉協議会、鳥取市からも入ってもらっている。会議は年に３回開き、毎年何をするか年間計画を立てている。今年は孤立している人を少なくしようと計画した。そして各団体の集まりで、必ずその話を出してもらっている。団体を巻き込むのが大事だと思う。 ・学校の運営協議会にも参加しているが、小さい時から地区の大切さを教えるのが一番大事だと思い、学校では世代間交流をしてもらっている。その一環として、生徒達に手紙を書いてもらい、高齢者へ配る食事に付けて届けている。そのことにより、利用する高齢者が学校行事について知ったりする。小さなことだが、これが支え合いだと思う。今後もこういったやり方で進めるのがいいと思っている。
Ｋ委員	・福祉の問題は高齢者、障がい者、ひきこもり、子どもと範囲が広い。委員は皆福祉畑だが、ごみ屋敷の話となると生活環境課、交通の話になると交通政策課など行政の色々な所が関わってくる。地域の中では色々な人がいて、それがつながっていければと思う。民生委員、行政、社会福祉協議会とあるが、これからはその隙間を埋めていく関係が必要だと思う。 ・先の豪雨では、私は小規模多機能介護施設の運営委員だったので、そこへ行った。何かあったとき、地域に独居の人もいるので、夜に不安だと訪ねてきたら泊めてあげてほしいと話をした。実際に施設にそういう人が来た。その後は施設の人も避難したが、地域の避難してきた人も一緒に行った。何かのときは、今話したような施設になってもらいたい。

議事内容（要旨）	
K委員	・認知症について。私の地区では４回シリーズで、これでもかというくらい認知症対策をやっている。最終的には、認知症で行方不明になった人を地域の中で探したり、適切な目線や角度で話ができる、声かけができる仕組みをと考えている。認知症になっても大丈夫なまちや地域を作っていけたらと思っている。 ・子どもの問題について。放課後児童クラブがセンターにあり、ＤＶＤを見てもらったりしている。また、８月 18 日にはお父さんやお母さんに来てもらって、そうめん流しなどして親子でのふれあいを行う。若い人にも地域に関心を持って、出て来てもらえる仕組みを作っている。そういったことは行政ではできないので、地域で行う。高齢者の問題は、高齢者だけでなく若い人にも考えてもらう。そういったまちづくり、地域づくりが必要だと思う。 ・私は今１点宿題を貰っている。ひきこもりの娘がいる母子家庭だ。１年くらいかけて、話し合える、出て行けるようにできればと思っている。もちろん私だけでなく、地域の人と一緒に、その娘さんと信頼できる関係をつくりながらできたらいいと考えている。 ・高齢化、少子化の中で、福祉は隙間を埋めていくことが課題だと思う。
H委員	・資料３について。「１地域共生社会の周知と広報・啓発の推進」が大事だというのはその通りだと思っている。今活動している団体の皆さんが楽しく、生きがいややりがいを持ってやっているということを周知してもらいたいと思っている。 ・「２わかりやすい情報提供と福祉意識の醸成」について。無関心な人にいかにアプローチしていくかが重要だ。無関心な人が情報に触れて、好意的に思うかが大事なポイントだ。社会福祉協議会では、高齢者の疑似体験などの体験を小中高生に行ってきたが「可哀想だ」「大変だ」という同情を促すことはできても共感までいかない。自分には障がいがなくてよかった、歳をとりたくないといった着地になっている。 ・県社会福祉協議会では昭和の時代から教育委員会と一緒に、小・中・高校で福祉教育を行ってきた。社会保障制度を教えるのではなく、善悪を判断する力、批判意識の低下、思いやりの低下、無気力無関心無感動などの問題点があり、生きる力を育成しようということで行ってきた。具体的には、小学校低学年では基本的な習慣を確立させる、中学年では家族・集団の役割を知る、高学年から高校までは福祉の学習などをやってきた。生活のしづらさや困りごとは必ずしも個人的な要因で発生しているものではなく、その人を取り巻く環境や社会的要因も影響している。こういったことを理解してもらえるように、段階に応じてプログラムを仕掛けていこうと考えている。具体的には、障がいがある人との関係性を築いていく、その人を通じて社会問題を知る、考えることが大事だと考えている。

議事内容（要旨）	
H委員	・「誰もが」は難しいという意見も出たが、「誰もが」に入っていない人がいるという認識が大事だと思う。障がい者や高齢者だけでなく、健常者でも社会孤立といったものがある。地域の人が地域の問題を受けてアプローチしていく機会や仕組み、組織が必要だ。地区社会福祉協議会の活性化も議論の中に入ると思う。 ・「５参加しやすい環境と活動のきっかけづくり」についてでは、ボランティアに触れている。東京オリンピックのボランティアはとてもハードだと言われている。学校へもボランティア協力の通知が届き、インターネットでは炎上しかけている。ボランティアがタダ働きという社会的評価だけではよろしくないと思う。福祉を考えると、住民の力で、ボランティアでとなりがちだ。それも必要だが、それでも対応できないものを作り出すことが大事だと思う。 ・課題整理として財源が上がらないのかと思う。地域福祉の財源である共同募金の金額が減ってきている。色々な活動を支えている財源をどうするかも、地域福祉計画の中で議論されることだと思う。
M委員	・参加している委員は色々な計画策定に携わってきていると思うが、これまでの行政計画の主語は「行政」だった。（これまでの）委員は、「行政」が皆さんのために何をするのか計画を作るときに、色々意見を言う。そして出された計画の素案に対して、「これでいいですよ」というお墨付きを与える役割だった。しかし、地域福祉計画はそうではないことを確認いただきたい。地域にこんな課題がある、困っている人がいる、支える人も困っているなど色々と意見が出された。そういう状況を解決するのは行政ではなく、皆さん自身だ。専門職や職員として関わる場合もあれば、一住民として、ボランティアとして関わる場合もある。行政にやってくれという計画ではなく、皆さん自身が何をしたらこの問題が解決して、鳥取市、地域が未来に向けて持続可能なものになるのかを考えていただきたい。計画ができた、冊子ができてよかったではなく、この冊子を使ってさらに多くの住民を巻き込んで、地域をどのように変えていこうか考えて、行動してもらいたい。そのための計画を作っていく。次回に向けてもう一度資料を読んで、どんどん意見を発言してもらいたい。皆さんの思いに応えられた計画ができて、それを行政が後ろから支えるものになっていかないと、本物の計画にならないと思う。
岩城委員長	・スケジュール、次回の開催について説明 ・議事（７）その他についてなければ、閉会としたい。
事務局	・挨拶～閉会